

よしはさんの班では文学作品の冒頭部分を読んで、感じたことについて話し合っています。  
あとの問いに答えなさい。

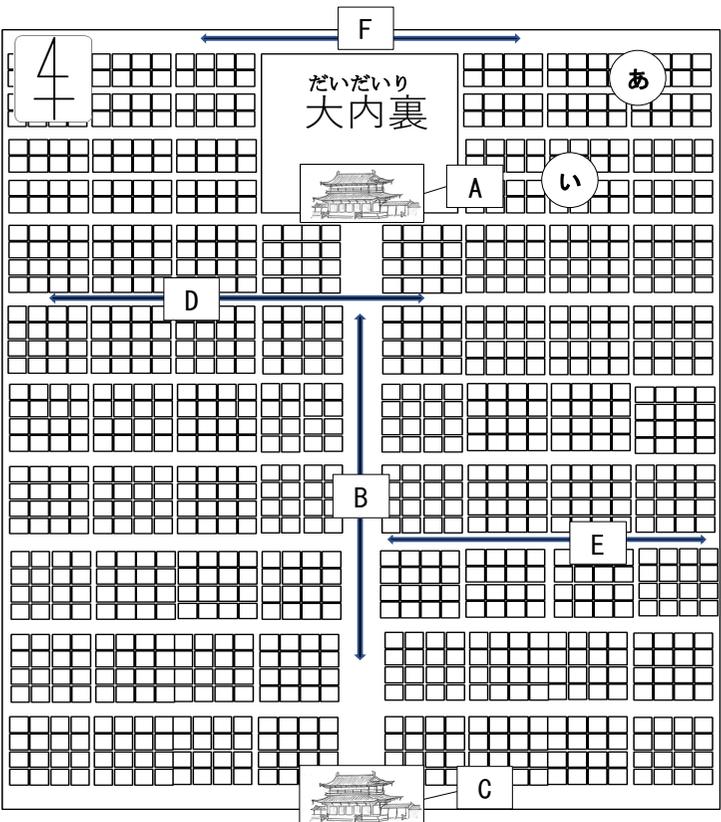
【文学作品の一部】

ある日の暮れ方のことである。一人の下人げにんが、羅生門の下で雨やみを待っていた。  
広い門の下には、この男のほかに誰もいない。ただ、所々丹塗にぬりの剥はげた、大きな円柱まるばしらに、  
蟋蟀きりぎりすが一匹とまっている。羅生門が、朱雀大路すざくおおじにある以上は、この男のほかに、雨やみを  
する市女笠いちめがさや揉鳥帽子もみえぼしが、もう二、三人はありそうなものである。それが、この男のほかに  
は誰もいない。

【よしはさんのノートの一部】

場所	羅生門の下	読者がつイメージ
時間(いつ)	ウ	・寂しい
登場人物	下人	・冷たい
目的	エ	・困っている

〈平安中期の平安京の町並み〉



調べた言葉

蟋蟀きりぎりす (きりぎりす)  
コオロギの古称。  
平安時代は、秋の虫である  
コオロギをキリギリスと呼  
んでいた。

市女笠いちめがさ (いちめがさ)  
竹皮で編んだ笠。



揉鳥帽子もみえぼし (もみえぼし)  
もんで柔らかく作った鳥帽子。



【話し合いの一部】

よしは この作品は、芥川龍之介あくたがわりゅうのすけの「羅生門」という作品です。作品ができた時代は、  
大正四年です。古典の今昔物語をもとに、作品を書き上げたそうです。

あかり 今昔物語に同じ話が出てくるのですか。

よしは 全く同じではありませんが、今昔物語の「羅城門」をもとに作られたそうです。

この「平安中期の平安京の町並み」の地図を見てください。

あかり 碁盤ごばんの目のようでおもしろいですね。

よしは はい。歴史上の人物の屋敷やしきがあったのですよ。例えば、「あ」の辺りには藤原道



## 問題について

### 発展

「読むこと」文学作品に親しむ問題

（「羅生門」を読む）

文学作品には、印象的で象徴的な書き出しの作品が多いと言われています。近代以降の文学作品の中から名作とよばれる「羅生門」を取りあげました。この「羅生門」も例にもれず、冒頭部分が印象的で象徴的な書き出しとなっていて、その後の展開に読者を見事に引き込んでいます。「今昔物語」に題材を得て書き上げた「羅生門」は、時代設定にも注目したり、物語に出てくる言葉も調べたりすることで、読解を助けます。また、物語を読んだ感じたことや調べたこと等について、話し合うことでさらに理解は深まります。

○ 解答は、問題用紙に記入します。言葉や文章で答える問題は、条件に注意して書くようにしましょう。

○ 解答を読んで、自分で答え合わせをすることもできます。文章で書く問題は、解答の例文を参考にしましょう。

## 解答

27

1 ア B イ C

2 ウ 暮れ方 エ 雨やみ (順不同)

3 (例) 今後、どうやって生きていけばよいのかわからない (気持ち) (二十二字)